

知床の森から



知床は「今」!

日本で最も遅い春が今、知床を訪れています。流水を渡る冷たい北風に半年間耐え抜いた知床の植物たちは、待ちかねた春に競い合って芽を吹き、冬色だった知床の山肌を萌黄色に化粧していきます。キタコブシの白、エゾヤマザクラの淡いピンク、そしてエゾエンゴサクの紫、決して派手ではありませんが、白一色からの変貌にはピッタリの色彩です。

動物たちも同じです。キタキツネ、エゾシカも重たい冬毛から夏毛に衣替えし、軽快に新緑の草原を飛び跳ねています。ただ昨年秋、観光客に愛嬌を振りまいていた子ギツネたちは何匹この厳しい知床の冬を乗り越えたのかが気掛かりです。知床の林道沿いで餌をねだる子ギツネの人恋しさにも似た振舞は、訪れる観光客が子ギツネにとって春の使者のように感じられます。動物も植物も短い知床の春を、思う存分満喫しながら再び数ヶ月後にくる過酷な冬を生き抜くため、もうエネルギーの貯えに入っていくのです。厳しいが故に美しい知床で生きていく動植物の縮図も見られる知床の春です。



野営場にクマゲラ 巣づくり始める

国設野営場内で、昨年クマゲラが雛を育てたことは新聞、テレビで報じられたところですが、果たして今年は?と案じていましたが、5月上旬同巣で育雛する夫婦を確認しました。シーズンオフの静まりかえった野営場の片隅で、仲良く卵を温めておりキャンパーが訪れる6月中旬には、初フライトに挑戦するクマゲラの雛の姿が見られることでしょう。

☆ 知床のカタツムリリスト作成される

カタツムリは、森林植生、土壌等の環境条件を示すものとして注目すべき指標生物です。知床のカタツムリについては、渡宏氏など本州の研究者が旅行中に採取した10科10種が報告されていました。知床森林センターでは、森林調査を行った際に採取、確認したカタツムリと既往の報告を合わせてリストを作成しました。

今回の当センターの調査で、ケンガイ科1種、アツクチキバサナギガイ(仮称)等キバサナギガイ科2種、ミジンマイマイ科、ナタネガイ科各1種、オオコウラナメクジ科2種、エゾキビ、オオタキキビ等ベッコウマイマイ科4種、コウラナメクジ科、オナジマイマイ科各1種の8科13種が新たに確認されました。

このうち、アツクチキバサナギガイ(仮称)とオオコウラナメクジ科の1種は、日本初記録と考えられます。

これによって、知床では合計15科23種のカタツムリが確認されたこととなります。



【アツクチキバサナギガイ(仮称)】



新版の

リーフレット作成



知床森林センターが管理している国設知床野営場の案内ガイドは、作成してから10数年が経過し、印刷技術の向上によるカラフルな広告物が出廻る現在では、遅れをとったものとなっていました。知床森林センター設置3年目を迎え今回、これまで知床のフィールドを駆け巡り撮った写真の数々、トレッキング経験などを盛り込み訪問者の立場にたった当センター独自の案内ガイドを作成しました。

案内ガイドはB4判2枚の大きさで、9つ折りにした携帯便利なポケットサイズとし広げると表面には、国有林の紹介、野営場の概要、知床連山の登山ガイド及び、半島に生息、生育する代表的な動植物の紹介などを、また裏面には知床を代表する樹木及び、観光施設、景勝地をイラストで紹介し、この案内ガイドを手にしただけで「居ながらにして、知床のフィールド気分を味わえる」をポイントとして作成しています。

この案内ガイドは3千部複製し、観光協会、JR斜里駅など旅人の目のふれやすい場に置くとともに、各新聞社、アウトドア雑誌各社にも送付するなどして、国有林のPRの他、野営場の利用を呼びかけています。このように積極的なPRの甲斐あってか、遠く神奈川県、埼玉県の方々から「家族旅行で利用したい」などの問い合わせもあり、野営場の委託先である斜里町振興公社にも、例年にない予約申し込みが殺到しています。

